HORIBA
Explore the future

第77期 報告書

2014年1月1日～2014年12月31日

株式会社 堀場製作所

ごあいさつ

オーナー（株主）の皆様には、
平素より格別のご支援を賜り
誠にありがたく厚く
お礼申しあげます。

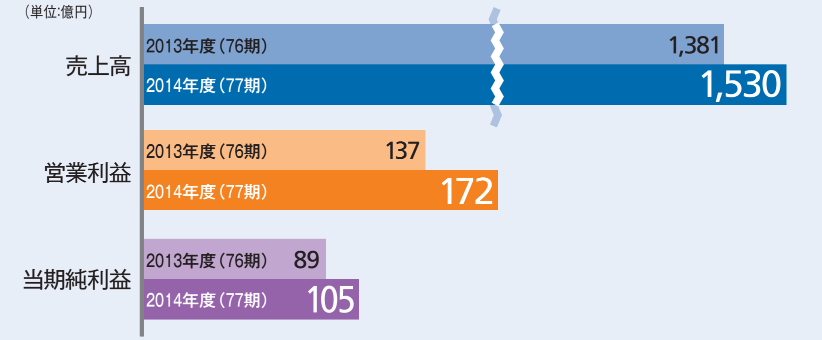
ここに事業の概況と今後の諸施策に
つきましてご報告いたします。

2014年度（1月～12月）連結業績について

2014年は売上高、利益ともに過去最高に

2014年度におけるHORIBAの業績は、売上高が1,530億6,500万円（前期比10.8%増）、営業利益が172億1,400万円（同25.3%増）、経常利益が164億5,400万円（同26.0%増）、当期純利益が105億8,900万円（同17.7%増）となりました。
分析・計測機器業界におきましては、半導体関連は、半導体メーカーの積極的な設備投資が2013年後半から続いており、需要は拡大しました。自動車関連も、国内外の自動車メーカーによる設備投資や研究開発投資が2013年に引き続き堅調に推移しました。また、環境関連も、中国などで火力発電所向けや工場における煙道排ガス分析の需要が増加しました。
このような経営環境の下、HORIBAでは、次なる成長に向けた投資として各地域の拠点整備を進めました。米州では、米国事業の統括機能を強化するため、米国カリフォルニア州内の米国本社拠点を移転集約しました。日本では、自動車計測システム機器部門と環境・プロセスシステム機器部門におけるガス計測分野の開発・生産力の強化のため、2015年秋の完成をめざし、滋賀県に「HORIBA BIWAKO E-HARBOR」（ホリバ ビワコ

連結業績の概要



HORIBAでは「中長期的な視点で投資いただきたい」という想いから、従来の単なる株式の所有者である「株主」という言葉よりも、"会社の所有者"すなわち「オーナー」という表現がふさわしいと考え、表現を統一しています。

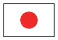
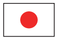
イーハーバー）の建設を開始しました。
事業部門別にみると、半導体システム機器部門では、製造プロセスの微細化に向けた需要増加を背景に、マスフローコントローラーの新製品の販売が増加し、市場シェアも拡大しました。自動車計測システム機器部門においても、国内外で、主力のエンジン排ガス測定装置とMCT（メカトロニクス）関連製品を合わせたシステム案件の需要が拡大しました。2012年に新製品を投入したエンジン排ガス測定装置の需要も増加しており、収益性が改善しました。
円安の環境下、販売拡大に努力した結果、売上高、利益ともに過去最高の成績をあげることができました。2015年2月の取締役会において、一株当たりの年間配当も過去最高の67円（前期比7円増）と決定しました。また、株主還元の更なる充実をはかるため30万株または10億円を上限とする自己株式の取得も決定しました。

中長期経営計画の最終年度、収益力の強化をめざす

本年は、2011年に発表した2015年度を目標年度とする中長期経営計画の最終年度です。本経営計画では連結売上高1,500億円、営業利益200億円、ROE（自己資本当期純利益率）11%以上という目標を掲げました。
売上高は目標値をすでに2014年度で達成することができましたが、課題は収益性にあると認識しています。特に、医用事業の強化のために現在も継続的に投資をしています。2015年度は販売と収益力の強化にさらに努めると共に、2016年以降の次期中長期経営計画策定のための準備を進めます。過去4年間で実施してきたことと、さらなるチャレンジが必要なことを再確認し、次期計画の戦略策定の基礎としていきます。
今後とも、経営方針である「HORIBA Group is One Company（HORIBAグループは一つの会社）」をベースに、投資効率を改善し、利益の最大化と継続的な企業価値創造に全力を傾注する所存です。オーナー（株主）の皆様におかれましては、倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

代表取締役会長兼社長

次なる成長に向けた投資

自動車	**HORIBA BIWAKO E-HARBOR**（2015年秋完成予定） ●ガス計測技術の開発/生産拠点の効率化と生産量拡大 ●投資額：約100億円	
環境	**プロセス計測設備　事業買収**（2013年） ●米州の石油化学メーカーのプロセスガス計測 ●2014年売上高：約11億円	
半導体	**HORIBA最先端技術センター**（2015年春本格稼働予定） ●HORIBA製品に使用される半導体センサーの開発/生産 ●投資額：約30億円	
医用	**ホリバABX社開発センター**（2015年夏完成予定） ●次世代製品の投入をめざした新開発拠点 ●投資額：約9億円	
科学	**フォトン・テクノロジー・インターナショナル社　事業買収**（2014年） ●蛍光分光分析分野での販売拡大 ●2014年売上高：約6億円	

HORIBAグループの半導体事業部門を牽引

株式会社堀場エステック

半導体のシリコンウエハの加工過程で用いられているガスや液体の量を計測し制御する「マスフローコントローラー」の開発、製造、販売を主に行っており、HORIBAグループにおいて半導体事業部門の牽引役となっています。同社のマスフローコントローラーは独自の技術力と強固なサポート体制を背景に世界トップシェアを有し、2014年度の世界市場シェアは52%を獲得しました。

マスフローコントローラーの生産工程

株式会社堀場エステック　概要

本社所在地	京都市南区上鳥羽鉾立町
工場所在地	京都市南区、熊本県阿蘇郡西原村
設立	1974年（昭和49年）
資本金	14億7,800万円（2014年末）
売上高	242億1,800万円（2014年度）

創立40周年を船上で祝う

›››堀場エステック　取締役副社長からのメッセージ

取締役副社長 小石秀之

堀場エステックは2014年に創立40周年を迎えました。1974年に株式会社スタンダードテクノロジとして設立され、設立当時は分析計校正用の標準ガス発生装置の製造販売が主な事業でした。

現在では、技術革新のスピードが速く、需要と供給のバランスの変動や好況・不況の波が大きい半導体市場で、主力製品であるマスフローコントローラーを中心に流体計測技術でグローバルにビジネス展開しています。

設立当初と比べると、企業規模やグループ内の期待も大きく変わりました。京都福知山テクノロジーセンターに続き、2015年にはHORIBA最先端技術センターの竣工も予定され、堀場製作所と堀場エステックのクリーンルームを集約し、HORIBAグループの半導体センサーの開発及び生産を加速させると同時に、開発部門での効率やシナジー効果を高めていきます。

今後も全社一体となってお客様のご要望に対応できるようチャレンジし続けます。

環境計測分野を中心に事業を拡大

中国における環境・プロセス事業の成長

煙道排ガス分析装置

2014年は、環境・プロセスシステム機器部門の製品である「煙道排ガス分析装置」の中国での販売が増加しました。
煙道排ガス分析装置は、主に火力発電所や工場などの煙突から排出されるガスの成分を分析する装置です。大気汚染が深刻化している中国で政府による煙道排ガスの規制・監視強化を受け、長時間安定して測定ができ、故障率の低いHORIBAの装置の販売が拡大しました。本製品は上海の工場にて現地生産をしており、中国での需要に柔軟に対応できる体制を整えています。2014年は前年と比べ、約4倍の台数を生産し、上海の工場での累計生産台数1,000台を達成しました。
今後も高まる環境規制需要に対応し、中国市場での販売拡大をめざします。

中国学術界と連携強化

分析・計測ニーズが高まる中国で、大学や研究機関との交流を進め、環境や衛生、食品安全等に関する最新の動向をいち早く把握するため、2012年に北京市理化分析測試中心と共同研究センターを設立し、また2013年には清華大学環境学院と「中国の環境監視システムの構築」を目的とした共同研究を開始するなど、中国の大学や研究所との共同研究や事業化を進めています。
2014年には、堀場（中国）貿易有限公司の北京事務所を、清華大学や北京大学、各種研究機関が集積する海淀区中関村へ移転しました。新事務所では、科学、環境・プロセス、医用セグメントの最新製品が利用できる分析アプリケーションセンターや、最大50名の収容が可能なセミナールームを備えており、製品トレーニングやセミナーを通じてユーザーとの技術交流を促進させる機能を拡充しました。
今後も中国学術界との連携を強化し、中国でのビジネス拡大をめざします。

北京オフィス

製品紹介

自動車向けブレーキダイナモメーター「GIANT Evo」

ブレーキ部品の基本性能やブレーキ制御システムのシミュレーションの試験に特化した試験装置ブレーキダイナモメーター「GIANT Evo」を発売しました。

本製品は、ブレーキに自動車の走行時と同様の負荷をかけることで、部品の性能をはじめ、耐久性や振動、ブレーキ音などの評価試験を行う装置です。近年、自動車はブレーキ制御においても電子制御技術が広く活用され、スリップ防止など安定走行に貢献しています。また、自動運転システムにつながる自動ブレーキなどの技術開発も活発化し、自動車の研究開発において、車両の評価試験は複雑かつ高度化していると言われています。

当社はブレーキダイナモメーターをはじめ、エンジンダイナモメーターなどの試験装置とともに、主力のエンジン排ガス測定装置と組み合わせた包括的な試験システムを提供することで、ガソリン・ディーゼル車にとどまらず、ハイブリッド車や電気自動車などの研究開発の効率化や迅速化に貢献しています。

自動血球計数CRP測定装置「Pentra MS CRP」

白血球（5分類）などの血球計数と炎症反応の指標となるCRP（C反応性たんぱく）を同時測定する自動血球計数CRP測定装置「Pentra MS CRP」を中国で発売しました。また、これまで日本・フランスで生産していた本製品を中国の上海工場で生産し、医用システム機器部門の中国事業を本格化します。

本製品は1度に白血球の5分類などを計測でき、中国での標準的な検査項目に対応します。1台でアレルギー・白血病の炎症疾患の検査に活用が可能で、中国の医療現場で需要が見込まれています。本製品をアジア戦略機と位置づけ、すでに上海工場で生産している検査用試薬とともに、中国での生産機能を強化することで、迅速な製品供給に対応します。

中国は人口が13億人におよび高齢化や生活習慣病患者の増加によって、医療機器市場の成長は年率20％を超えると言われています。製品供給の迅速化と安定化を図ることで、欧米・日本に加えて、アジア市場でも医用システム機器部門の拡販体制の強化を図ります。

半導体システム機器部門

薬液濃度モニター「CS-600F」

半導体事業の主力製品の一つであり、半導体ウエハの洗浄やエッチング工程で薬液濃度を測る薬液濃度モニターの最上位機種「CS-600F」を発売しました。
近年、スマートフォンやタブレット端末を利用したクラウド情報処理社会に代表されるように、電子データ量は急増しており、その保存や処理に必要な半導体の量も増え続けています。そのため、高機能・小型な電子部品を実用化することで、半導体製造工程における表面処理の均質性や歩留りを左右する薬液処理での濃度の精密管理が求められています。特に洗浄工程は、欠陥の原因となる汚染物質の除去を目的として、製造工程の30%を占めるとされています。
本製品は、本体容積を小型化し設備配置の柔軟性を高めながらも、高温の洗浄薬液でも安定的な高精度濃度管理できる性能を提供するものです。薬液が多種多様となる中で、“迅速・安定・省スペース”を実現し、歩留り向上やプロセスの最適化へ貢献します。

科学システム機器部門

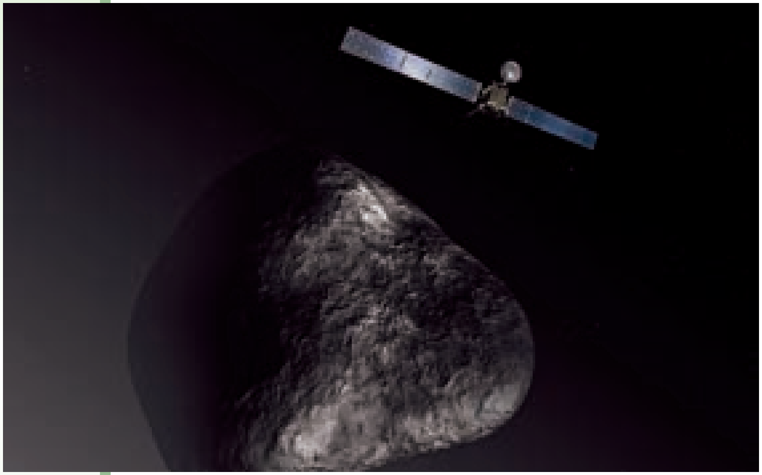
「AFM-ラマン分光分析装置」

世界最高の10ナノメートルの分解能を持つ、二次電池や半導体などのナノ材料の分子構造の解析などに用いる「AFM-ラマン分光分析装置」を発売しました。
分子構造や化学組成を解析するラマン分光分析装置(※1)に、原子レベルで試料表面の形状を観察するAFM(原子間力顕微鏡(※2))の機能を搭載し、ナノ領域の研究に活用が期待されます。
AFM搭載により既存製品比で100倍の高分解能を実現し、また、試料をセットして業界最短の約10分で解析開始できる簡易な構造を実現しました。高分解能で簡単に解析したいという潜在的な需要に応える本製品の提供により、研究員の作業効率化や解析手法の多様化を実現することで、ナノテクノロジーの発展に貢献します。

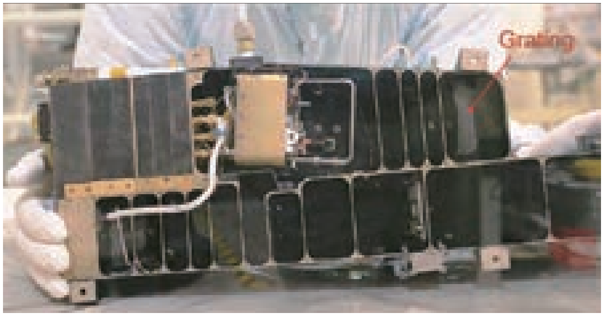
(※1)ラマン分光分析装置
試料に光を当てて、試料から発生するラマン散乱光から分子構造や化学組成の解析を行う。
(※2)原子間力顕微鏡
試料と「探針」と呼ばれる細い針の先端との間に働く原子間力を用いて、試料表面の凹凸を原子レベル(0.1ナノメートル)で観察できる顕微鏡。

TOPICS

彗星探査機「ロゼッタ」にHORIBAの技術が貢献



彗星探査機ロゼッタ
Photo：ESA（欧州宇宙機関）



ロゼッタに使用されているHORIBAの製品（写真右上）
Photo：ESA（欧州宇宙機関）

2004年、彗星探査機「ロゼッタ」がフランスから宇宙に打ち上げられました。10年の時を経て、2014年8月に目的地である彗星に到着したロゼッタにHORIBAの技術が貢献しています。

ロゼッタとは、太陽系の起源を解明することを目的として、欧州宇宙機関によって打ち上げられた彗星探査機です。ロゼッタは、彗星の核への着陸に世界で初めて成功した極めて貴重な探査機となりました。彗星は、太陽系の誕生時から存在しており、太陽系の起源を解明するための貴重な情報が得られ、今回は、彗星の大気中の元素などを調査することが目的とされています。

このロゼッタには、当社のフランス子会社※の製品「回折格子（グレーティング）」が搭載されています。宇宙に打ち上げられてから10年、また、製造されてから14年経った現在もなお、初期の高性能を維持しており、今回のプロジェクトに貢献しています。

本調査は2015年12月まで続けられる予定であり、ロゼッタから送られてくる情報により、太陽系の起源を探る研究が進展することが大いに期待されています。

※ホリバ･ジョバンイボン社（フランス）。フランス･パリに本社を置き、世界で最も歴史がある分光分析機器メーカー。HORIBAの科学事業部門の中核子会社。

第17回アジア競技大会に林選手と中村選手が出場

林選手

中村選手

2014年に韓国の仁川にて開催された第17回アジア競技大会の日本代表選手として、当社社員のアーチェリーの林勇気選手と射撃の中村結花選手が出場しました。

林選手は、女子団体戦において、インドとの3位決定戦を制し、銅メダルを手にしました。日本代表として28年ぶりに表彰台にあがる快挙となりました。中村選手も、女子エアライフル団体9位などの成績を収めました。

今後もリオデジャネイロオリンピックなどを目標に練習に励むHORIBAのアスリートにご声援をお願いします。

›››HORIBAの事業活動に高い評価

●「German Design Award 2015」を受賞

ポータブルガス分析計 PG-300シリーズが本賞を受賞しました。国際的に最も権威のあるデザイン賞のひとつであり、本製品は2,250件の中からの受賞となりました。

●9年連続　ベストカンパニーに選定

2015年発表「働きがいのある会社」ランキング※の従業員1,000人以上の部において、9年連続でベストカンパニーに選定されました。

※調査機関Great Place to Work®Instituteによって、世界45ヶ国以上、5,500社超に対して実施されている世界最大規模の従業員意識調査です。

業 績 ハ イ ラ イ ト

売上高

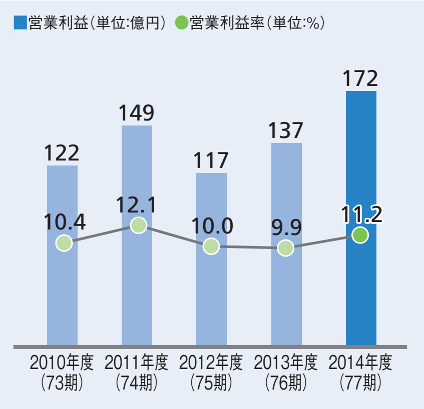
1,530億6,500万円

（前期比10.8%増）

営業利益/営業利益率

172億1,400万円

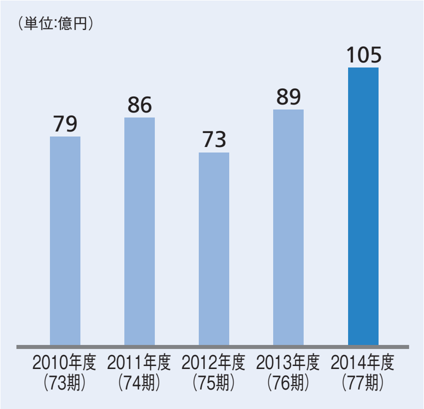
（前期比25.3%増）



当期純利益

105億8,900万円

（前期比17.7%増）



一株当たり純利益

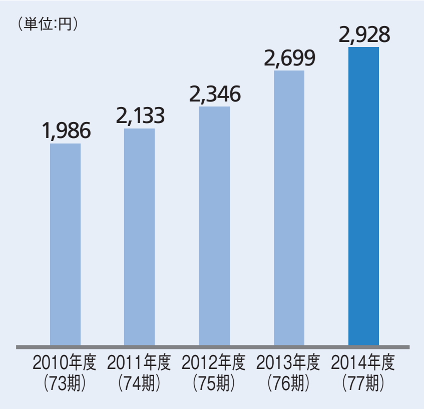
250円

（前期比17.6%増）

一株当たり純資産

2,928円

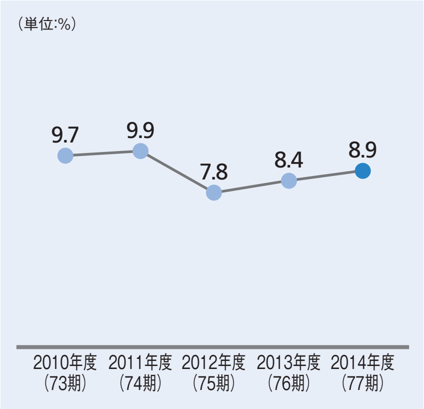
（前期比8.5%増）



ROE（自己資本当期純利益率）

8.9%

（前期比0.5ポイント増）



■ 連結キャッシュ・フロー計算書

（単位:億円）

科　目	2010年度（73期）	2011年度（74期）	2012年度（75期）	2013年度（76期）	2014年度（77期）
営業活動によるキャッシュ・フロー	119	69	133	150	114
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 28	△ 61	△ 78	△ 81	△ 98
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 10	8	△ 33	23	△ 2
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 12	△ 3	8	10	5
現金及び現金同等物の期末残高	344	357	388	492	511

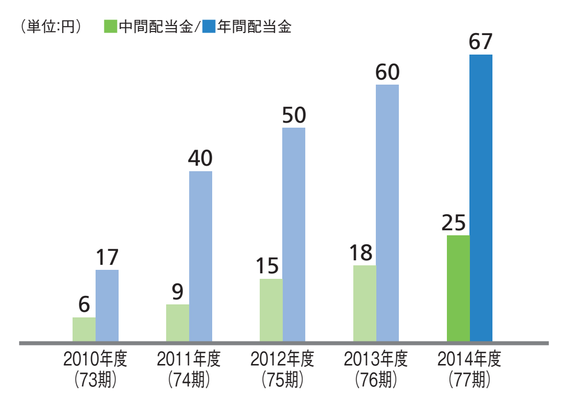
»オーナーの皆様への利益配分について

HORIBAでは、オーナーの皆様への利益配分について、基準配当性向主義を上場以来採用しています。2013年度(76期)からは、連結業績とより直接的に連動した株主還元を実施するため、配当金と自社株買いを含めた株主総還元額を連結純利益の30%を目処とする方針に変更しました。
こうした方針の下、2015年2月開催の取締役会においては、2014年度(77期)の年間配当金を67円(うち期末配当金42円)と決定いたしました。同時に30万株または10億円を上限とする自己株式取得を決議いたしました。

一株当たり年間配当金

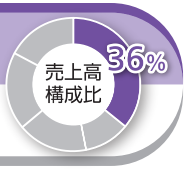
67円（前年比7円増）

＜過去最高＞



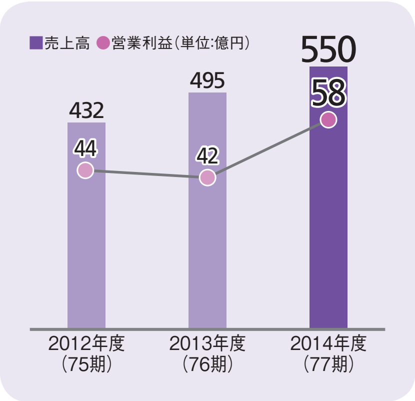
自動車計測システム機器部門

売上高 550億100万円



アジアや欧米各国での自動車メーカーの設備投資や研究開発投資が増加したことに加え、円安により欧米での売上高が円換算で増加しました。

この結果、売上高は前期比11.1%増の550億100万円となり、営業利益は同35.9%増の58億2,700万円となりました。

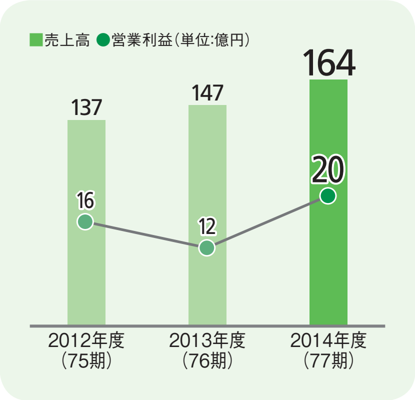


環境・プロセスシステム機器部門

売上高 164億6,500万円

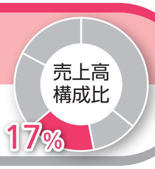
日本や中国において発電所や工場向けなどで煙道排ガス分析装置の販売が増加したほか、中国や韓国などアジアでの水質計測装置の販売も堅調に推移しました。加えて、欧州ではポータブルガス分析計の販売が増加しました。

この結果、売上高は前期比11.9%増の164億6,500万円となり、営業利益は同58.9%増の20億700万円となりました。



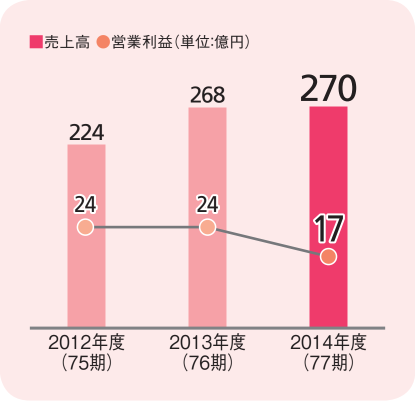
医用システム機器部門

売上高 270億3,700万円



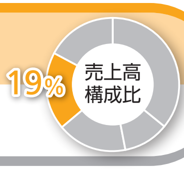
円安により欧米での売上高が増加しましたが、世界各国で血球計数装置の販売が低調でした。さらに、欧州での新製品開発のための研究開発投資や北米での販売ルートの強化費用などにより、収益性が低下しました。

この結果、売上高は前期比0.8%増の270億3,700万円となり、営業利益は同29.3%減の17億1,700万円となりました。



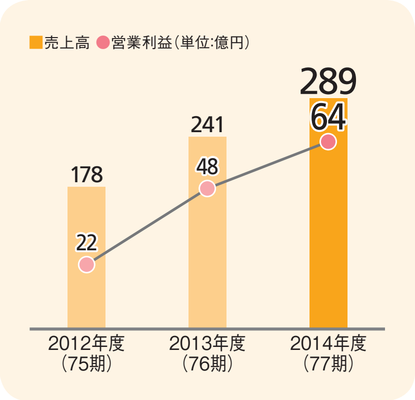
半導体システム機器部門

売上高 289億3,400万円



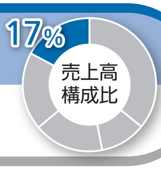
半導体製造装置メーカーの増産により、主力製品であるマスフローコントローラーの販売が堅調に推移し、特に第4四半期において大幅な増収となりました。

この結果、売上高は前期比19.8%増の289億3,400万円となり、営業利益は同34.1%増の64億5,500万円となりました。



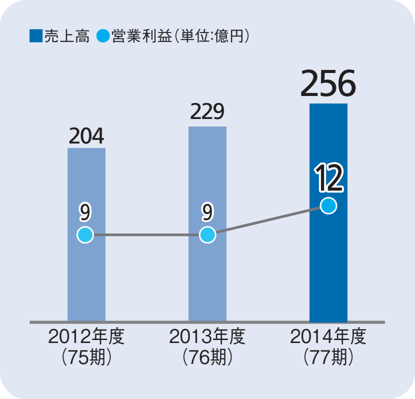
科学システム機器部門

売上高 256億2,700万円



買収したフォトン・テクノロジー・インターナショナル社（米国）の販売が加わったほか、欧州での政府研究機関などでの研究開発投資の増加から、販売は堅調に推移しました。さらに、円安により欧米での売上高が増加しました。

この結果、売上高は前期比11.8%増の256億2,700万円となり、営業利益は同28.6%増の12億600万円となりました。



特別損益について

2014年2月、当社及び一部の連結子会社が加入している総合設立型厚生年金基金において、特例解散の方針が決議されました。この解散に伴い発生する損失の見込み額を引当金として計上し、特別損失として、1,870百万円を計上しております。

一方、この事態を受けて、当社の保有する有価証券の一部を売却し、特別利益に1,954百万円を計上しました。

第77回定時株主総会決議結果

第77回定時株主総会決議結果等
2015年3月28日に開催した当社第77回定時株主総会において、次のとおり取締役６名が再任されました。また、同日開催の当社取締役会において、各取締役の役位について前期より変更はなく次のとおり決定しました。

取締役
堀場　厚　（代表取締役会長兼社長）
石田　耕三（代表取締役副会長）
齊藤　壽一（取締役副社長）
佐藤　文俊（常務取締役）
足立　正之（取締役）
杉田　正博（社外取締役）

なお、監査役3名及び補欠監査役2名については、今回変更はありません。
第77回定時株主総会の決議結果につきましては、書面による決議通知のご送付に代えて、当社ホームページ（http://www.horiba.com/shareholders-meeting/）に掲載しております。

HORIBA Report 2013が統合報告優秀企業賞を初受賞

2014年5月に発行したHORIBA Report 2013[※1]が、第2回WICIジャパン[※2]統合報告優秀企業賞を受賞しました。同賞は、投資家などのステークホルダーの皆様に、財務情報に加え人財や技術などの見えない資産を含めた非財務情報も紹介することで、企業価値や将来性などを効果的に伝えている企業に贈られるものです。

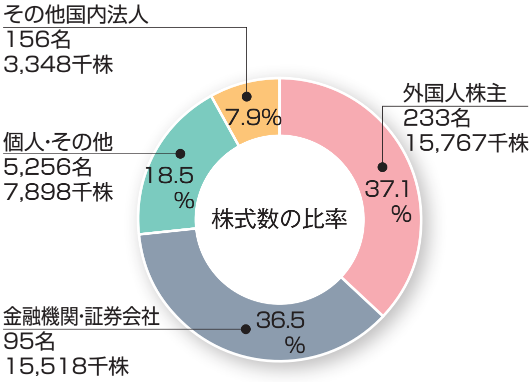
今後も、株主・投資家をはじめとしたステークホルダーの皆様へ、様々な発行物やウェブサイトなども活用して情報開示を積極的に行い、市場から適正な評価を受けられるよう、正確性・公平性の高い情報発信に努めます。

※1 HORIBA Report 2013は当社ホームページ上でご覧いただけます。（http://www.horiba.com/jp/to-our-stakeholders/horiba-report/）
※2 WICIジャパン：株主やステークホルダーの関心が高い非財務情報などの開示を改善し、企業経営が適切に評価される世の中を作ることを目的とした組織WICI(The World Intellectual Capital Initiative)の日本組織

株式の状況（2014年12月31日現在）

発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式総数	42,532,752株
株主数	5,740名

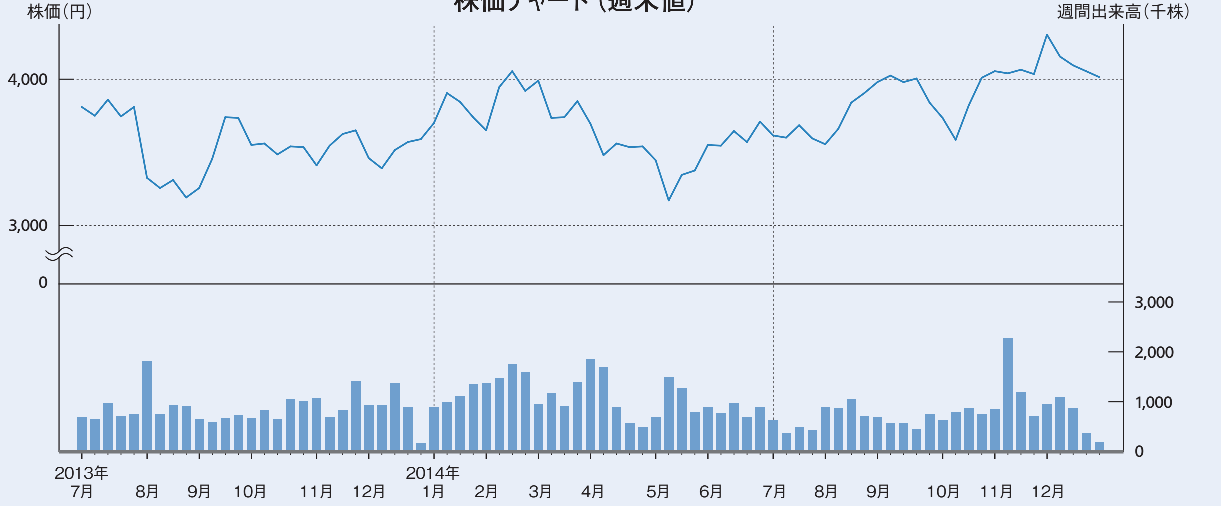
●株主構成



●大株主一覧（上位10位）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本トラスティ･サービス信託銀行(株)(信託口)	3,162	7.4
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,987	4.6
TAIYO FUND, L.P.	1,781	4.1
ピクテアンドシーヨーロッパエスエー	1,462	3.4
全国共済農業協同組合連合会	1,287	3.0
堀場　雅夫	1,150	2.7
(株)京都銀行	828	1.9
堀場　厚	810	1.9
堀場洛楽会投資部会	779	1.8
ジャパン　リ　フィデリティ	673	1.5

株価チャート（週末値）

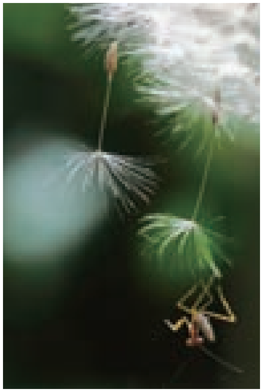


（折れ線グラフ：株価、棒グラフ：出来高）

オーナーメモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月下旬
基準日 定時株主総会 期末配当	毎年12月31日
中間配当	毎年6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 （電話照会先）	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 Tel：0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京（第1部）
証券コード	6856
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ(http://www.horiba.co.jp/)に掲載いたします。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

環境フォト・コンテスト2015



[表紙写真]

堀場製作所賞 「地球のささやき」

佳作 「ふわりブランコ」 林 昌尚

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設された方は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●「配当金計算書」について

配当金支払いの際、送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。なお、配当金領収証にて配当金をお受取りのオーナーの皆様につきましても、配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

＊確定申告をされるオーナーの皆様は、大切に保管ください。

少額投資非課税制度口座（NISA口座）における配当金のお受取りについて

新規に購入された当社株式をNISA口座で所有される場合、配当金につき非課税の適用を受けるためには、口座管理機関（証券会社等）を通じて配当金を受取る方式である「株式数比例配分方式」をお選びいただく必要があります。NISA口座に関する詳細につきましては、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

株式会社 堀場製作所
京都市南区吉祥院宮の東町２番地
〒601-8510 Tel:(075)313-8121　http://www.horiba.co.jp/

この印刷物は、環境に配慮し植物油インキを使用しています。 VEGETABLE OIL INK